

南あわじ市 平成 24 年度 事務事業評価シート  新規  継続  
( 事業 委託 補助用 )

基本事項

		整理番号	94
事業名	まつり補助金	予算科目	会計 一般会計・1
担当部課名	市長公室		款 総務費・2款
電話	0799 - 43 - 5002		項 総務管理費・1項
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務 <input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務		目 企画費・5目
		法的根拠 (法令、条例、要綱等)	南あわじ市補助金交付規則
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	人づくり 知恵あふれ 郷土愛が満ちるまちづくり	
	まちづくりの目標	一人ひとりが明日を拓くリーダー【教育】	
	施策目標	南あわじを元気にする市民の知恵を結集しよう	
該当する事業について「 」を選択		<input checked="" type="checkbox"/> 施策的事業	<input type="checkbox"/> 業務委託 <input type="checkbox"/> 負担金補助

Plan (計画、事業内容、事業背景)

事業概要	目的	対象(誰を・どのような状況の人に) 南あわじ市在住・在勤する市民、及び京阪神からの観光客 対象人数(人) 50,000
	目的	意図(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入) 市民組織やNPOが企画する市民まつりを支援し、参加する市民相互の連帯意識の高揚と郷土愛の育成を図り一体感を誘導する。合わせて、魅力あるふるさと資源を来訪者に紹介する。
	実施内容	(何をどのような手段・内容・手順により目的を達成させるのか) 各市民まつりの実施については、旧4町地域実行委員会が主催となり、まつりの企画概要を検討し、地域の市民協賛金の協力依頼等自治会への協力依頼や各種実施態勢等をはじめ、市民参画による連帯意識の高揚や郷土愛育成等地域活性化等を図っている。 淡路だんじり祭 実行委員会(3回)、運営委員会(5回)を開催し参加団体のとりまとめ、ポスター作成など準備を進めていたが、3月に発生した東日本大震災により自粛 慶野松原花火大会7月30日(土)慶野松原海水浴場周辺 オープニングイベント(子供太鼓トナボ 叱けん、南あわじ太鼓衆豊)、花火大会3,400発ほか15,000人 福良湾海上花火大会8月14日(日)福良湾周辺 オープニングイベント(和太鼓美鼓音ほか)、花火大会1,500発15,000人 南あわじ食と文化の市民まつり10月29日(土)～30日(日)サライズ 淡路体育館及び淡路ふれあい公園 前夜祭 市民カク発表会 南あわじ食と文化の市民まつり 市内特産PR市ほか各種文化芸能グループ・中学生ブラバンド・プロ演歌歌手ステージ・おれつ風たまご焼き選手権・もちまき ほか5,000人
	背景	旧4町でそれぞれの地域特色を活かし実施されていた祭りを踏襲し、「市民まつり」として冠実施することで新市一体感の醸成を図ることができる。 これら4つの市民まつりを一本化することにより更に一体感を醸成しようと「市民まつり運営委員会」で毎年議論を行っているところであるが、一本化することによる旧町域の閉塞感への懸念や一本化の市民まつりへの「市民協賛」の難しさ等もある中で、4地域が継続し地域や南あわじ市を市内外へ盛り上げようと実施する意欲を尊重していくことが現在最も重要である。
	事業実施主体	<input type="checkbox"/> 市直営 <input checked="" type="checkbox"/> 民間・その他 (市民まつり地域実行委員会)
事業期間	<input type="checkbox"/> 平成 17 年度 ~ 平成 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし	
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯) <input type="checkbox"/> 旧緑町 <input type="checkbox"/> 旧西淡町 <input type="checkbox"/> 旧三原町 <input type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input checked="" type="checkbox"/> 新市から なし だんじり祭(三原)、南あわじ食と文化の市民まつり(緑)は新市発足以降に開催。 平成24年度慶野松原花火大会(西淡)は34回、福良湾海上花火大会は18回をそれぞれ実施予定	

## Do (事業活動・成果、投入資源・コスト)

事業に対する 目標の設定	指標名	各市民まつり参加者数					指標単位 人
	指標説明 (指標算出 方法等)	各市民まつり実績報告書					
		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	目標値	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	
	実績値	49,500	45,000	35,000	45,500		
	達成度(%)	99.0	90.0	70.0	91.0	-	
目標値設定 の考え方	市民の参画を中心とし、観客を併せ本市の総人口を目標値に設定した。 H23年度淡路だんじり祭(4月開催)については、東日本大震災により開催を自粛した。						
資源配分 (インプット)		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	直接事業費 (千円)	10,855	10,655	8,790	10,465	10,000	
	まつり補助金	10,855	10,655	8,790	10,465	10,000	
	財源 (千円)						
	国						
	県						
	起債						
	その他	855	655	1,160	465		
	一般財源[A]	10,000	10,000	7,630	10,000	10,000	
	人件費(正規職員)[B] (千円)	3,348	3,384	2,713	3,204	3,204	
	平均人件費(1日当り)	27.9	28.2	27.4	26.7	26.7	
	事業量1(事業に要した日数)	30	30	30	30	30	
	事業量2(事業に要した人数)	4.0	4.0	3.3	4.0	4.0	
年間経費([A]+[B])	13,348	13,384	10,343	13,204	13,204		
「目的」対象人数1人当り経費 (円)	267.0	267.7	206.9	264.1	264.1		
経費に関する 補足説明	平成23年度まで決算額。平成24年度決算見込額。平成25年度当初予算額。 財源:その他は寄附金 事業量1(事業に要した日数)まつりの業務について一人当たり30日と想定した。						

### Check (事業の自己評価・一次評価)

	単位	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
達成度	目標達成度	%	99.0	90.0	70.0	91.0	
	(事業目標の達成度分析、問題点・課題などを記入。) 目標に近い実績であるが観客数の集計については無理で特に慶野松原花火大会、福良湾海上花火大会は会場が大きいため細かく計れないため不特定多数の参加者が来ている。特に慶野松原花火大会は実績をはるかに上回る観客数となる。 また、達成度分析についても、市民協賛、企業協賛等も長引く景気低迷により減少傾向の中、まつりの実施についても持続可能な方法について、経費削減等の努力等それぞれの実行委員会で鋭意検討いただいております。達成度については非常に設定あるいは分析が難しいと考えています。						自己評価 (5点評価) <b>3</b>
有効性	(住民満足度の分析、問題点・課題などを記入。) 参画する市民側についても、少しずつ増えてきているが、満足度の分析は難しいが毎年それぞれまつりの反省会を行いながら改善をしている状況である。毎年継続していくことにより、市内外へのまつりの認知度も拡大しつつある。市民協賛金、企業協賛金も景気低迷の中、各実行委員会と自治会の協力により集められていることも評価できる。						自己評価 (5点評価) <b>4</b>
	事業単価	円	267.0	267.7	206.9	264.1	264.1
効率性	(効率性・コストの分析、問題点・課題などを記入。) 慶野松原花火大会34回、福良湾海上花火大会18回と歴史のある花火大会であるが花火については産業振興部、だんじり祭は教育部、食と文化の市民まつりは市長公室と市民まつりの担当課を統合することにより、必要経費をもう少し改善していくことができる。市民まつりを一本化するのではなくひとつの部局で集約することにより市民まつりの経費削減と内容の充実、さらには一本化による予算削減等の実現が可能になる。						自己評価 (5点評価) <b>4</b>
	公共性の高低	<input checked="" type="checkbox"/> 高	<input type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低			
(公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 合併後の市民の一体感の醸成ということで平成18年度に4つの地域の市民まつりを南あわじ市夢まつり2006として一本化実施したが、時期的(8月の昼間開催であった)に不評であったため、以降毎年市民まつり運営委員会を行い一本化に向けて意見交換しているが、一本化の実現には4つの地域市民まつりを実施した上で一本化したまつりを実施する方法しかないとの意見集約になっており、現状は、4つの地域市民まつりの歴史の灯を消さぬように支援することとしている。まつりの一本化を強引に踏み切ったとしても、市民の不満が出ることになり、市民協賛金5,752千円(22年度決算へ-入)も激減することが想定される。また、隔年に一本化と4つの市民まつりの実施も協議したが、補助金削減による4地域のまつりの継続への不安が多くを占め、一本化については困難であるとの意見になっている。いましばらくは、市の補助金の継続が必要である。							
総合評価	自己評価をふまえた現状分析 合併後の一体化の状況を市民まつりの一本化により推進することが重要と考え、各4つの市民まつりの今後の在り方を考える「市民まつり運営委員会」で毎年協議は行っている。昨今の各地域コミュニティが希薄化する中において、長い歴史のある各地域に合わせた独自性のある祭りについても継続させることも極めて重要である。						

## Action &amp; Plan (改善の内容及び次年度以降の計画)

	平成25年度にできる改善・改革	平成26年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input checked="" type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input checked="" type="checkbox"/> 手法見直し
	現状維持としているが、今後は市民まつりの一本化ではなく、担当部署の集約による経費削減を検討している。	同左
(現状維持以外の改善方法)		担当部署を集約することにより、市民まつりの経費削減と内容の充実、さらには一本化による予算削減等の実現が可能になる。
改善によって期待される効果	効果(アウトカム)面	効果(アウトカム)面
		コスト面の削減により、市民まつりの内容の充実を図ることができる。
	コスト面	コスト面
		消耗品やその他イベント経費の考え方について、市民まつり平準化を図ることができる。イベント物品の共有化によりコスト削減を図ることができる。
(現状維持の場合も記入)	仮に事業を中止、統廃合した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面)	
中止・統廃合の影響	補助金を無くすことについては、それぞれの祭りの実施について(金銭的)厳しい状況となる。補助金廃止により実施意欲の低下、行政への不満や苦情について、かなり増えることが予想される。	